

三島市郷土館 企画展

三島の山(ヤマ)の祭り 里(サト)の祭り



平成8年7月20日(土)
〜
9月16日(月)

みこし
オテンノウサンの神輿
(大場神社境内・7月6日)

リュウソウサンのお札を
刷る(伊豆佐野・3月17日)

三島市は静岡県^の東部に位置する町です。市域の約6割を占めるのは箱根山西麓の傾斜地で、その丘陵地や谷間に、人々は畑作を主生業として生活を営んでいます。残り4割の市域は三島市街地と、その南に広がる中郷の耕地。かつての中郷耕地は肥よくな水田地帯であり、三島の米蔵の役割を果たしてきました。

すなわち三島は海こそありませんが、ヤマあり、サトあり、マチありで、生活環境の変化に富んだ所だといえるでしょう。

そこで、今回の企画展では三島のヤマとサトをとりあげ、そこに昔から伝えられてきたそれぞれの特徴的な祭りを、資料とともに展示してみました。



サトの暮らしと祭り

三島のサトの地域は市街地を挟んで南北に広がっています。三島市と合併する以前の旧村落名でいえば、北は北上村にあたり、南は中郷村にあたります。特に中郷村は、昔から村域の大部分を水田が占めていた穀倉地帯でした。今回、サトの村としてとりあげた地域は、旧中郷村で、現在の三島市大場、中島、梅名、安久。そして間宮（函南町）の各地区です。

サト地域の特色は水田です。現在でこそ新しい住宅地や、下田バイパス沿いに並ぶ商店地区や工場地区が大きな面積を占めていますが、戦前までの中郷地域は三島南部に広がる水田地帯でした。

水田地域の人々の暮らしは、春から秋にかけては水稲栽培、秋から春にかけては裏作としての麦の栽培と、一年のほとんどをたんぼで過ごす生活でした。したがって、年中行事も水田仕事の進行に合わせた形で、稲の無事な成育を祈願する内容の行事が大部分を占めていたものです。また、村単位で行われる祭りも、春から夏に行われる行事と秋の収穫後に行われる秋祭りに、大きく二分された形で行われてきました。

いわば、サトの祭りは水田の豊穰を祈り、祝う稲の祭りだといえるでしょう。

サトの祭りの典型としてとりあげたのが「オテンノウサン」の祭りです。オテンノウサンは天王信仰で、各村ごとにまつり、田植えの終わったばかりの田を「神輿」（みこし）となつて回り、稲の無事な成育と村の安全を祈願する祭りです。威勢のよいあばれ神輿が伝統の、夏のサトの風物詩でもありました。

オテンノウサンのお祭りは三島市の中郷地区のほか、隣町の清水町でも広く行われています。清水町の場合、境川西側の戸田、久米田や、徳倉、新宿などでも行われています。

賀茂川神社

ぎおん
(祇園さん、加茂川町)の
オテンノウサン



古くから三嶋大社の鬼門除の神として素盞鳴鳥命を祀っています。

7月8日に大社の舞殿に移遷され、15日に三島市街を御輿で巡幸し、悪疫流行除の祈禱を行っています。

(写真＝賀茂川神社から大社へご神体が遷される)

だいば

大場のオテンノウサン(7月6日)

7本の縄をねじりながら祠をしばり神輿としています。神輿が練り歩く、大場公民館・大場駅前などは群衆でにぎわいます。



やすひさ

安久のオテンノウサン

(7月6日)

明治初期以来中断していたが、昭和57年に復活しました。祀られているお札は文化年間のもの。(八王子神社境内)



中島のオテンノウサン

(7月6日)

左内神社境内にある八坂神社の祠を太さ二分五厘の縄でしばり、神輿とします。町内巡幸の後、中島公民館前に1週間据え置きます。



中島の『天王講連名覚帳』

中島にはオテンノウサンが江戸時代から続いてきたことを物語る古文書が残され、代々区長さんに引き継がれています。帳面の表題は『天王講連名覚帳』といい、慶応2年(1866)から昭和30年代までの文書が綴られています。

明治二年(1869)の記録、「覚」には次のようなことが記されています。

「明治二年人かす(数) 質 儀右衛門 忠七 藤兵衛 藤兵衛 栄助 藤左衛門 平蔵 忠五郎 権蔵 常蔵 周蔵 勇蔵 栄蔵 久蔵 与七 忠助 藤七、せんざい物、百文・さかな 五拾六文・こふりこんやく(氷こんにやく) 四百文・油 四百四拾八文・かぼちゃ 百文・にどなり 三百文・きうり(胡瓜) 四百文・杉はし 六百文・しょゆう(醤油) 四百文・なわ(縄) 三百文・なす 九百文・さかな 八百文・酒代 貳百文・す(酢) 百文・紙 老貫百四拾八文・あづき 五貫四百文・もち米 貳百五拾貳文・ろふそく(蠟燭) 九拾貳文・ちゃ(茶)、しほ(塩)」

「覚」の内容は、中島の天王講の当番の連名とそれにかかる費用と購入品です。

サトの祭りオテンノウサン

オテンノウサンは夏の祭りとしてサトの村各地で行われます。その時期や祭りは各村ともほぼ似ていますが、微妙な相違もあって興味ある課題です。

三島市域では、旧中郷村の梅名、中島、大場、安久と隣村の間宮(函南町)で、7月に行われます。6日は祭りのホンビ(本日)で、この日、天王神の納められている祠が神社境内から外に出され、荒縄で縛られ、神輿となって村内や村の水田を練って巡幸します。上記4地区の祭りはほとんど同じであり、梅名と大場、中島などはムラ境を接するところから、しばしば神輿と神輿の衝突もあったといわれています。いわゆるオテンノウサンは「暴れ神輿」で、そうすることが縁起がよいとか、夏の疫病祓いや稲の病虫害祓いの効力があると信じられています。

梅名の場合、天王神を納めてある祠は、ふだん右内神社に安置しています。田植えも済み、マンガアライも終わってほっと一息をつける頃オテンノウサンの準備が始まります。まず、祠を引き出して水で洗い清めます。縄は手分けして縄を束ねてきれいになった祠をぐるぐる巻きに縛り付けます。この際の縄の巻き方には各村で若干の相違があります。縛られた祠はカツギボウにくくりつけられ神輿の形態となります。氏神社前で神事が行われ、担ぎ手の青年たちによってムラに繰り出します。ムラ内には各所にオタビショが設けられ、そこで神輿は休憩し、担ぎ手は酒やご馳走の接待を受けます。

ムラ内を威勢よく練り歩く神輿には、沿道の見物人から水がかけられるなどしてさらに勢いづいて盛り上がります。巡幸は夕方から夜中まで行われ、かつては最後に梅名川に放り込まれ川の中でも練り上げられました。

巡幸を終えた神輿は神社前に帰り、荒縄を刃物を使用しないで棒でねじり切ります。その後、祠は神社前に安置され女衆たちのオコモリの場となります。オコモリは約一週間続けられます。

清水町のオテンノウサンは、旧・泉六カ村地区(玉川・久米田・戸田・的場など)、下徳倉、新宿、伏見などで行われています。三島のオテンノウサンとの大きな相違は祠を神輿に仕立てて村内を巡幸しないという点です。新宿の場合、かつては小浜用水の支流の川に祠を建ててお祭りしていたといいますが、現在では公民館前に場所を移して行われています。

オテンノウサンの神、天王神は「牛頭天王」「素戔鳴尊」などと理解され、荒ぶる神であるから、夏に予想される数々の災厄を追い払ってくれると、一般には信じられています。三島及び周辺天王信仰は尾張の津島天王社(愛知県津島神社)から勧請されたとするものが多く、祠に残るお札にもそうした形跡のものが見受けられます。近世当地方を巡回した津島御師の布教の影響と考えられます。

梅名のオテンノウサン

(7月6日)



縄を巻いて神輿となる



拝殿前で神事を待つ神輿



拝殿前での神事



子供神輿の出発



右内神社前で練る大人神輿

ヤマの暮らしと祭り

三島市におけるヤマの村は箱根山西麓の丘陵地や谷間に小集落を形成しつつ点在しています。北辺の裾野市境から南へ、伊豆佐野、徳倉、沢地、山田、竹倉・玉沢地区が谷間に点在し、元山中と近世以後成立した五ヶ新田（山中・笹原・三ツ谷・市の山・塚原）地区が西麓の尾根上にあります。この中で自らの集落内に水田を保有しているのは伊豆佐野、徳倉、沢地、山田、竹倉などですが、いずれも水田よりも畑作を主に作っている土地柄です。また、これらの地区に共通するのは箱根山という山地を集落内に広く所有し、ここを生活の主な場としている点です。肥料にする刈り草や落ち葉、牛馬の飼料にする草、あるいは燃料とするモンキ、竹製品の材料となる箱根竹などの山の生産物は、山の人々の暮らしを支える重要な物とみなされていました。

箱根山に棲息する動物も暮らしと深い関係がありました。大型動物の一種、猪は古代からヤマの人々の狩猟の対象とされていたと言われますが、現在も棲息（せいそく）していて、猟期には鉄砲撃ちたちの獲物（たぬき）となっています。そのほかに日本猿、狸や何種類もの鳥類たちが棲息（せいそく）しています。

このようなヤマでの暮らしには、ヤマ独特なくらしぶりが展開されていて、折々に行われている祭りや年中行事も、ヤマ特有のものが伝統的に継承されています。

正月、各地では山の神の祭りが行われますが、伊豆佐野の中モヨリで継承されてきた「ヤッサモチ」は、この地特有の餅つきです。百日紅のタテギネ（縦杵）で、暴れるようにつかれた餅は、泥や藁くずが混じった真っ黒けの餅ですが、これが山の神への供物とされます。餅つきの「やっさ、やっさ」というかけ声に由来する名称ですが、本来は山の神の祭りです。（1月14日深夜）

玉沢の山の神祭りは、集落内の小高い山の上にある祠（ほこら）の前で、供物の餅をお互いに引っ張り合って取り分ける「ヒツパリモチ」が行われます。また、祠脇には「マト」が設けられ、竹の弓矢で射る「奉射」の行事も残っています。（1月17日）

山の神祭りは、年の始めの山入りを祝す行事であると同時に、一年の豊作を祈る意味もあり、年始めの農民にとっては欠くことの出来ない大切な行事に位置づけられています。

三島のヤマの祭りでもっとも特徴的な祭りは、3月17日に行われる「リュウソウサン」です。「龍爪様（山）」と書き、集落内で「講」が組織され、昔からお祭りが行われてきました。リュウソウサンがあるのは、伊豆佐野、元山中、小沢の3集落ですが、三島にはこれ以外には全くなく、ヤマの集落の特徴ある祭りといえるでしょう。

リュウソウサン

三島のヤマの集落（伊豆佐野、小沢、元山中）で行われてきたリュウソウサンの祭りは、地元ではテッポウガミサンなどとも称され、鉄砲による災難を逃れることが出来ると信じられ、昔から地元はもとより、広域の信仰を集めて盛んに行われていました。

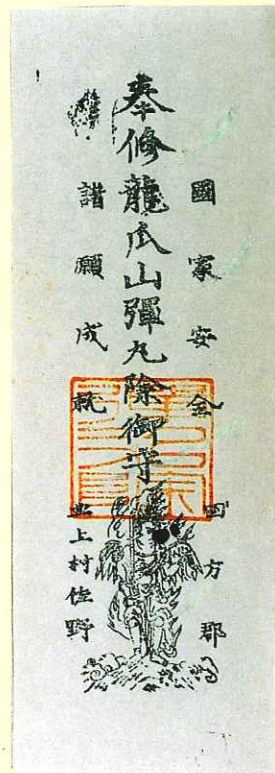
お祭りが特に盛んだったのは明治後半から太平洋戦争の終わる昭和20年代くらいまでで、この時期は、ちょうど、近代化を推進し日本が軍事的にも西欧列強諸国と肩を並べようと、対外戦争を重ねてきた時代でもありました。したがって、テッポウガミサンや鉄砲による災難の最たるものである弾丸の命中からのがれたいという「弾丸避け」などの信仰は、こうした日本の時代背景にもなって起こり、信仰として定着してきたともいわれています。

三島のリュウソウサンでは「龍爪山」と書き、お祭りの日には「龍爪大権現」と彫られた版木でお札を刷って村人や参拝者に配る習慣がありました。お札の図柄には、文字と烏天狗の図像があるものや弾丸の形のものがありますが、その内のいくつかには「龍爪山穂積神社」とあり、三島地域の龍爪神社が静岡市の北郊外に聳え、通称「龍爪山」と呼ばれる双峰の山（葉師岳、文殊岳）の山頂近くに鎮座する穂積神社から勧請されたものであることを物語っています。

この龍爪山穂積神社はかつては「龍爪権現」と呼ばれてきたものが、明治になって神仏混淆の権現名廃止によって現在のようになったとされ、古くは農業神的な性格をもっていたが、鉄砲の伝来から普及にしたがって、次第に狩猟神、または鉄砲の安全神としての性格を強めてきたものであろうと推測されています。



伊豆佐野の龍爪講（3月17日）



伊豆佐野のリュウソウサンのお札

伊豆佐野のリユウソウサン

伊豆佐野はいくつかのモヨリと呼ばれる集落が集合され、大きく上・中・下と区別されていて、多くの祭りはモヨリごとか区別ごとか、あるいは一村という形で行われますが、リユウソウサンの祭りは「龍爪講」の19戸がモヨリ等を越えて行います。昔は20戸だったが、近年1戸が抜けて19戸になったといえます。

祭日は3月17日で、講仲間が順番にヤド（宿すなわち当番）を回り持ちし、神社での祭典の後のナオライの会場を引き受けます。床の間にはヤド持ち回りの「龍爪神」の掛け軸がかけられ、その前で酒を飲み、ご馳走を食べます。

講員はほとんどが鉄砲を所有し、獵を行う人々で、皆「親の親くらいから鉄砲を撃ってきた」ということです。

かつてのリユウソウサンでは、神社脇にあった射場で、祭典の後鉄砲を撃ち合っ腕を競ったといえます。現在の講員にはそうした経験はすでになく、「大人たちが撃ったシシダマ（猪玉）と呼ばれた丸い鉛玉を拾って集め、自慢の宝物にした」という思い出だけが残っていました。



伊豆佐野の龍爪講で
床の間にかけてられた掛軸

元山中のリユウソウサン

明治37年以前まで、元山中と小沢では共通の龍爪神社で、リユウソウサンのお祭りもいっしょに行っていたといわれます。当時は小沢が8戸、元山中が7戸という小集落で、これら全戸がリユウソウサンを行っていたと古文書には記録されています。明治37年に両村でもめ事が起こり、それを機に二つに分けてお祭りするようになったと伝えます。その際、小沢側が社を所有し、元山中側が御神体を所有したといえます。

現在、元山中の龍爪神は集落から少し離れたところに祀る山の神の社内に、稲荷、八幡などの神とともに合祀されています。

お祭りは3月17日。公民館に集まって、酒を飲みご馳走を食べることが習慣となっていますが、かつては龍爪神社の前で、各家庭が一品ずつの酒の肴をアオキに乗せて持ち寄ったものを食べたといえます。また、オコワ（赤飯）のおにぎりも必ず作ったものでした。

ここでは伊豆佐野のような射撃はなかったといえますが、講員の一人の渡辺家には、今でも龍爪講のお札を張り付けた「テッポウドコ（鉄砲床）」が残っているなど、小沢と共通だった時代の名残が見られます。



元山中の渡辺家に残る「鉄砲床」(左)
お札が貼ってある



元山中のリユウソウサンのお札



龍爪講の日 お札を刷る

こざわ 小沢のリュウソウサン

こざわ
小沢は総戸数19戸という小さな集落ですが、リュウソウサンの仲間には全戸が加入しています。

祭りは3月17日。集落の上にある龍爪神社の掃除を済ませてから、公民館へ集まって、酒を飲み、ご馳走を食べて終了です。こうした料理は当番が用意することになっていますが、最近では仕出しの料理を取って済ませることが多くなっていると聞きます。しかし、必ず出すものとして、オコワ（赤飯）で作ったおにぎりがあり、昔から続けられてきました。

戦争当時のこざわ小沢のリュウソウサンには、田方一円からもお参りの人が来て、小沢で発行するお守りを買って、赤飯のおにぎり食べて帰ったそうです。

小沢には、昔神社で揚げたという大きなハタ（幟）が残っていますが、それには「奉納龍爪山穂積神社 明治乙巳（38年）3月17日小沢氏子中」と墨で書かれています。また、かつて、祭りで発行したお札の版木や古い記録が残されています。

小沢のリュウソウサンは、今ではこのように「弾避け信仰」とは関係ない村の年中行事として続けられ、鉄砲との関係も「もとはちったあ（鉄砲を）担いだっけなあ」と伝えるだけでした。



小沢集落の上にある龍爪神社



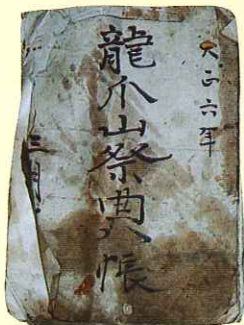
龍爪神社に奉納された日露戦争当時の絵馬(明治39年)



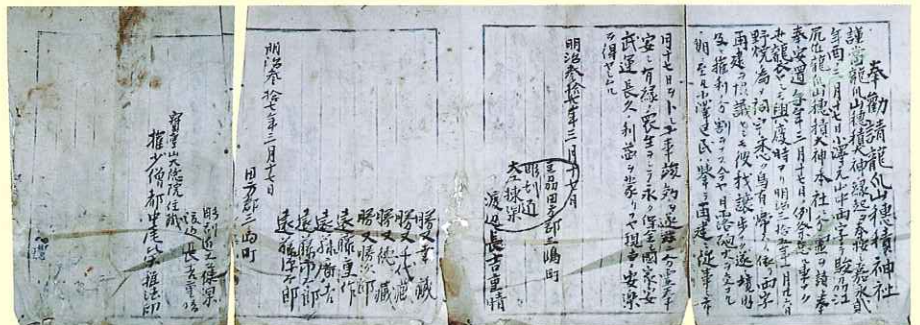
明治時代のハタ(幟)



小沢のリュウソウサンの版木とお札



龍爪講祭典帳(大正6年)



**小沢・元山中両区の
龍爪分割に関する文書**

奉勸請龍爪山穂積神社
謹当龍爪山穂積大神縁起ヲ奉按
シ嘉永式年酉ノ三月十七日小沢
元山中両字テ駿州江尻在龍爪山
穂積大神本社二分靈ヲ請ケ奉安
置毎年三月十七日ノ例祭怠ル事
ナク世襲セシモ興変時アリ明治
三十五年一月廿六日野焼ノ為メ
祠宇悉ク鳥有ニ帰ス依テ両字再
建ヲ協議セシモ彼我譲歩ナク遂
ニ境内及ビ権利ノ分割ヲナス今
ヤ日露砲大ヲ交ユル期ニ至ル小
沢区民ハ挙テ再建ニ從事シ本月
十七日ヲトシ工事竣工ヲ遂茲ニ
分靈奉安シ有縁ノ衆生ヲシテ永
ク国家安運長久ノ利益ヲ蒙リ
ツヤ現当ノ安樂ヲ得セシムル
明治参拾七年三月十七日
豆州田方郡三嶋町

彫刻匠 大工棟梁 渡辺長吉重晴	勝又幸蔵 勝又千代蔵 勝又徳蔵 勝又勝次郎 遠藤重作 遠藤吉吉 遠藤源太郎	彫刻匠大工棟梁 渡辺長吉重晴 寶心山大徳院住職 権少僧都中尾栄権法印	明治参拾七年三月十七日 田方郡三嶋町
-----------------------	---	---	-----------------------

桑原(函南町)のリュウソウサン



桑原の碑文解読

当地由来
表記所有者の先祖は
特に鉄ぼうを持ち
つねに野獣鳥を狩猟し
農作物を保護したる功に
より葦山藩より
米六俵扶持を給わり
これをもって
毎年二月二十八日当龍爪神
社の祭祀を挙行し
今日に及ぶ
これは山崎安正書

元長窪(長泉町)のリュウソウサン



長泉町元長窪の龍爪神は集落北側の台地にあります。石祠で、脇には近年造られたと思われる「龍爪山」の石碑がありました。お祭りは行われていないとのこと。

須山(裾野市)のリュウソウサン



リュウソウサンのお祭り(5月5日)の準備



龍爪神碑



龍爪神碑に隣接してクレー射撃場がある。

青羽根(天城湯ヶ島町)のリュウソウサン



龍爪神社のお祭り(4月3日)



社殿内での神事

新宿(清水町)のオテンノウサン

(6月22日)



昭和30年代中頃までは旧東海道に沿った小浜用水支流の上に、3ヶ所交替で祠を建て、秋までおまつりしました。今は新宿公民館前に約1ヶ月まつります。

下徳倉(清水町)のオテンノウサン

(7月6日)



4年前まで、毎年ムギカラ(麦ワラ)で祠の屋根をふいてお祭りしていました。現在は八幡神社境内に社殿が建てられています。

間宮(函南町)のオテンノウサン

(7月6日)



神明神社境内にある八坂神社のオテンノウサン。下田街道を練り歩き、宮川で最も盛り上がります。

三島周辺のオテンノウサン・リュウソウサン分布図

リュウソウサン

- ①静岡市龍爪山穂積神社
- ②裾野市須山
- ③裾野市下和田
- ④長泉町元長窪
- ⑤三島市佐野
- ⑥三島市小沢
- ⑦三島市元山中
- ⑧松崎町八木山熊野神社境内
- ⑨松崎町小杉原
- ⑩松崎町池代
- ⑪西伊豆町沢田
- ⑫西伊豆町一色
- ⑬西伊豆町白川
- ⑭西伊豆町瀬宜畑
- ⑮西伊豆町宮ヶ原
- ⑯賀茂村大久須熊野神社境内
- ⑰賀茂村月原原神社境内
- ⑱土肥町土肥
- ⑲土肥町新田
- ⑳河津町奥ヶ原
- ㉑東伊豆町稲取
- ㉒天城湯ヶ島町青羽根
- ㉓中伊豆町菅引
- ㉔修善寺町大野
- ㉕函南町桑原

オテンノウサン

- (1)三島市梅名
- (2)三島市中島
- (3)三島市安久
- (4)三島市大場
- (5)三島市加茂川町(賀茂川神社)
- (6)清水町新宿
- (7)清水町下徳倉
- (8)函南町間宮



出品協力者

- 三島市 伊豆佐野 龍爪 講
- " 元山中 龍爪 講
- " 小沢 龍爪 講
- " 中島町内会
- 清水町 下徳倉区

三島市郷土館企画展

「三島の山(ヤマ)の祭り・里(サト)の祭り」

編集 三島市郷土館
〒411 三島市一番町19-3
楽寿園内
TEL 0559 (71) 8228
FAX 0559 (81) 3730
発行 三島市教育委員会
発行日 平成8年7月20日